HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	技術報告 ： 大家畜実験実習施設における学生実習について
Author(s)	新海, 秀史
Citation	北海道大学北方生物圏フィールド科学センター生物生産研究農場技術業務報告, 5, 90-91
Issue Date	2006-03
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/34496
Type	departmental bulletin paper
File Information	6_p90-91.pdf

Hokkaido University Collection of Scholarly and Academic Papers : HUSCAP

大家畜実験実習施設における学生実習について

新海秀史

北海道大学北方生物圏フィールド科学センター生物生産研究農場

1、はじめに

大家畜実験実習施設は 1968 年に建設され、大家畜の飼養管理に利用されている。北大においては 1877 年建設のモデルバーン（模範家畜房、現在は重要文化財に指定）に続く 2 代目の施設となる。現在約 20ha の圃場とホルスタイン 40 頭、緬羊 10 頭を技術職員 4 名にて日常の管理業務を行っている。

2、学生実習との関わり

農業教育には実践が必要であるというクラーク博士の考えを現在も引き継ぎ、大家畜実験実習施設では数多くの実習が行われている。

家畜生産実習	農学部	畜産科学科	(2 年後期、3 年前期必修)
農場実習	農学部	生物資源科学科	(3 年前期必修)
		農業経済学科	(3 年前期必修)
		応用生命科学科	(3 年前期選択)
農業機械学実習	農学部	農業工学科	(3 年前期選択)
飼養管理実習	獣医学部	獣医学科	(2 年前期必修)
家畜内科学実習	獣医学部	獣医学科	(5 年前期必修)
家畜臨床繁殖学実習	獣医学部	獣医学科	(5 年前期必修)
食と緑の体験演習	全学教育科目		(1 年前期選択)

また授業外においても、1983 年より獣医学部繁殖学講座の学生が発情徴候、人工授精、分娩監視介助等の繁殖管理を行っている。ほとんどの実習には職員が関わっている。特に家畜生産実習、農場実習、農業機械学実習においては、実習内容の立案、実習時間内における補助、指導を行っている。主な実習内容は、実際に大家畜を飼養している現場で行われていることは可能な限り体験してもらおうという考えであり、舎内では清掃、糞尿搬出、搾乳、哺乳、飼料給与、ブラッシング、削蹄、除角、粗飼料移動等、舎外では肥料散布補助、雑草刈り、乾草上げ、柵補修等がある。
今回、当施設の紹介を兼ねて、学生実習の内容、技術職員の実習への関わり、今後の実習での課題等を紹介したいと思う。

大家畜実験実習施設資料

施設

スタンチョン牛舎　1.648 ㎡　（88 頭繋留、対尻式、2 階乾草貯蔵庫、パイプラインミルカー、バーンクリーナー）

地下糞尿貯留層　450 ㌧

スチール製気密サイロ　239 ㎥　2 基　（ボトムアンローダー）

機械庫　512 ㎡（1 棟）　256 ㎡（1 棟）

家畜飼養頭数

	96.1.1	97.1.1	98.1.1	99.1.1	2000.1.1	2001.1.1	
乳牛♀	43	38	35	37	43	41	
♂	1	5	5	12	12	0	
緬羊	23	18	13	13	8	10	（頭）

牛乳生産

	96	97	98	99	2000	2001	
総搾乳量	128.399	147.488	127.100	137.994	121.308	115.818	
出荷量	114.072	134.552	113.168	117.364	107.764	77.335	（kg）

粗飼料生産

	96	97	98	99	2000	2001	
乾草	49.179	59.407	76.184	43.128	52.980	53.748	
グラスサイレージ	73.800	78.300	76.200	43.650	48.000	39.750	
コーンサイレージ	85.100	86.800	122.100	111.000	93.150	89.100	（kg）

総圃場面積

	96	97	98	99	2000	2001	2002	
総面積	25.5	23.2	23	23	22.7	22.7	約 20	
割愛		馬場　2 先端研 0.35	フュージョン 0.35		樹林帯 0.15 馬通路 0.15		創成研 ナノテク 3.3	（ha）